

# 英語



釧路東高校  
(北海道・道立)

工藤よしの先生

教員歴6年目。大学で心理学を専攻したあと、旅行会社の添乗員、主婦を経て、北海道教育大学の教員養成課程で学び、高校教員に。自身も釧路出身であり、これからの釧路を背負って立つ人を育てていきたいと思っている。



一緒にやろう。できることはある。

学び合うにはあなたもみんなも必要なんだ

↓「あなたがいて良かった」と思い、思われる授業

### 生徒の課題・育成したい力

英語スキルの枠に収まらない  
伝える力、関わる力、自信を育みたい

釧路東高校に赴任して間もないころ、工藤よしの先生は、授業中に生徒たちから「俺らにかまうな」放っておいて」と言われたことがある。驚いて事情を聴き出すと、中学生の時に、成績が伸び悩むなかで「学校や塾の先生から相手にされなかった」と感じる経験をそれぞれがもっていた。

同校の生徒は、中学校までは勉強が得意とはいえず、自分に自信がない生徒が多い、と工藤先生は感じている。「誰でもうまくやる」ことへの苦手意識もあるようで、友人以外とは同じクラスでもあまり関わらない。釧路湿原のある地元にはアジアや欧米からの観光客も増えているが、外国人にも恐怖や嫌悪を抱きがちだ。「ですが、本校の生徒はこの地元で暮らしていくことが多く、『釧路を背負っ

て立つ人』たちなんですよ。だから、よそから来た人とも怖がらずに関われるようになつてほしいし、道で困っている人がいれば避けずに助けようとしてほしい。そしてそんな人との関わりから『あなたがいてくれて良かった』と認められる体験もたくさん味わい、生徒自身が幸せに生きてほしい、と思っています」

bとdの識別が苦手な生徒もいて、英語のスキルは発展途上。でも工藤先生はそこだけにこだわっていない。「英語学習を通して『私はこう思う、理由はこうだから』という文の組み立てができるようになれば、日本語の意思疎通にも生かれます。英単語がおぼつかなくても、外国人と会ったときに、Hi!と挨拶して翻訳アプリも使って話そうとする姿勢があれば、コミュニケーションは取れます。英語のスキル以上に、そうした本質的な伝える力、人と関わる力を伸ばしたくて、『自分はその力がある』という自信を何よりも育みたいのです」

### 授業デザインへの落とし込み

生徒に合ったゴールを定め、  
小さな階段を全員で学び合って登る

人と関わる力やその土台となる自信を育むために、工藤先生が心掛けているのは、単元ごとに目の前の生徒に合ったゴールを設定することだ。

「単元の内容」を漏れなく教えることより、単元の内容で、生徒が何ができるようになるのかを重視します。例えば『関係副詞を使った表現ができる』

# 【単元を通じたデザイン】

**科目・単元名** コミュニケーション英語  
Activity 2 My Treasure

**教材** 教科書 (Revised COMET EnglishCommunication I)

**単元の目標** 自分の宝物を (ALT)のAriel先生がよくわかるように紹介しよう

## ●単元の流れ (全5時間 50分×5コマ)



### なりきりスピーチ

教科書の例文「私の宝物」をその人になりきって話す練習。Criteria (下図)でセルフチェックも

### 日本語作文・英作文

教科書の構文を基に「私の宝物」をまず日本語で考え、音声翻訳アプリVoiceTra(※)も使い英作文

### ペアで学び合い

3時間目は生徒同士ペアでお互いの英作文をチェックし、次いでスピーチ練習

### 数人で学び合い

4時間目は数人でスピーチ→仲間のフィードバック→振り返りをくり返す

### 1回目の発表

生徒を2グループに分けて、1つ目のグループでまず発表、フィードバックをもらう

### 2回目の発表

2つ目のグループで、動画の撮影があるなかで再度チャレンジ

＜GML＞ 自分の宝物をAriel先生がよくわかるように紹介しよう		具体的すること	self-check
Script	Introduction	宝物の名前や特徴(色や形など)を言う	( )
	Body	宝物について詳しく説明することができる	( )
	Conclusion	宝物に対する自分の気持ちを伝えることができる	( )
Presentation & Fluency	Speech (address)	自分のスク립トを確認する ・宝物を思うとき、感情を込めて話す ・自分の宝物が大切な理由を説明する ・宝物のことが何かに入っているのか、どうして大切な宝物なのかを説明する	( )
	Expression	相手に聞かせる ・抑揚をつけて英語らしく読む ・確認にせず、抑揚をつけて英語らしく読む	( )

ダウンロード可

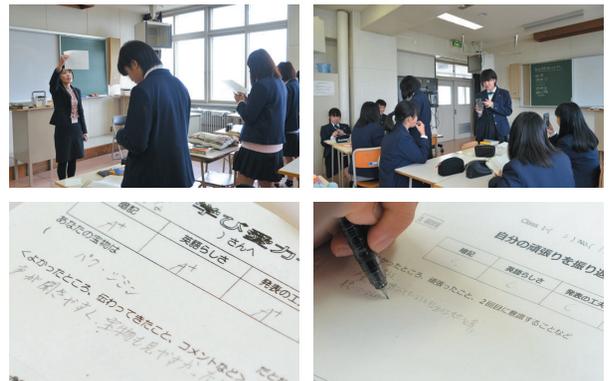
工藤先生が他の先生の例からも学び自作したCriteria (評価基準)。スピーチのScript (台本)とExpression (表現)について、評価基準と、評価されるために「具体的にすること」が示されている。生徒がセルフチェックや級友へのフィードバックに活用

※VoiceTraは、国立研究開発法人 情報通信研究機構 (NICT) の技術を活用したアプリ。話しかけた日本語を英語に訳し、その翻訳文を再度日本語訳にするので、意図した翻訳になっているか確認できる

## 【授業実践のポイント】

ALTのAriel先生にスピーチする、というゴールに向けて、生徒同士が「お互いの良い点を伝え合う」「失敗してもまた挑戦できる」環境の中で学び合う。

### ●仲間から賞賛や指摘をもらいながら「自分の発表を自分で良くする」(4時間目)



個人練習+グループ発表で1時間で5回スピーチを反復(写真上)。仲間からのフィードバックと自分の振り返りで、できたことを確認し、次はどう改善するかを考える(写真下)

### ●「失敗したら終わり」ではなくもう一度チャレンジできる環境に(5時間目)



教室を前後に分け、「みんなの前での発表」もぶっつけ本番のみにせず、1回目の発表→フィードバック後、2回目の挑戦ができる形に。緊張する生徒を先生は笑顔で応援。

をゴールに置いたら、この単元で他に学ぶ文法があっても、そこは軽めにしたり別の単元にくっつけたらして、定めたゴールに向かって生徒ががんばれば登れる小さな階段を作るイメージで、毎授業の内容を考えるんです。そうしたやり方をバックワードデザイン(逆向き設計)というのだと昨年研修で教わり、やり迷いがなくなりました」

「生徒同士をつなげる」ことも意図的に行う。英語を読む・書く・聴く・話すのどの活動でも、友人以外にもペアやグループを組む機会をつくり、「学び愛カード」と名づけた用紙を使って、お互いの良さや気づきをフィードバックしながら、全員で学び合うことを大事にし

「生徒一人ひとりが『あなたがいてくれて良かった』と相手から思われ、自分も相手にそう思い、学び合うなかでお互いの成長を実感する。そんな経験を積み上げてほしいんです。『一緒にやろう。できることはあるし、できることをしよう。学び合うにはあなたもまわりのみんなも必要なんだよ』ということが、授業を通して一番伝えたいことですね」

取材時は、単元の間差し挟まれたActivity(活動)を通しての学習)を授業で行っていた。教科書の元々のお題は「自分の宝物を発表する」。そこに工藤先生は「ALTのAriel先生がよくわかるように」と言加え、漠然と発表せずに実在する相手に伝える、というゴールを設定した。

ダウンロード可

※ダウンロードサイト: リクルート進学総研 >> 発行メディアのご紹介 >> キャリアガイダンス (Vol.430)

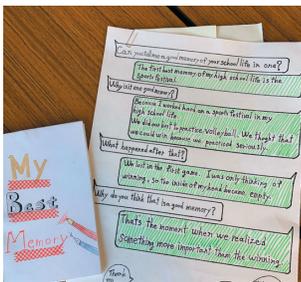


＜ 生徒の声 ＞

1年生による英語学習1年間の振り返り

- 入学した当初本当に英語が嫌いで苦手でしたが、英語が好きになりました！ 来年はもっともっと英語を話したり書いたりできるようになりたいです。
- 英語で話すのが、少しだけど、怖くなくなった気がする。ゲームや映画で楽しく勉強できたから、中学の時よりも英語を好きになれたと思う。楽しかった！
- 中学生のころ本当に英語がわからなかったのですが、おかげさまですっかり人並みになれました。イェイ！ この一年、英語ではいいことしかありませんでしたし、他の教科が多少(というか多々)悪くても英語はずっと上々でした。Sank you! you are very very exelent ticher!! I respect you! (原文ママ)
- 英語は特に好きではなかったけど、授業で英語って楽しいなあと感じた。ペアの活動も毎回違う人とやるので全くしゃべれない人ともお話しできてうれしかった。バイトでよく外国人が来るけれど、前は外国人だ…みたいなかんじだったけど、これからは外国人きたあぁ！って話しかけられたらとてうれしい。

3年生による英語表現(高校の思い出)



「高校生活一番の思い出をAlly先生(前任のALT)にわかりやすく伝えよう」という課題に取り組んだ昨年度の3年生の成果物。「この単元で重点的に学んだ、過去形を適切に使い、文の構成を意識し、関係副詞whenを効果的に用いて、Ally先生を感動させよう」と呼びかけたところ、生徒たちはBOOK形式や会話形式の表現、動画を盛り込んだInstagramでの表現など、工藤先生の想定をはるかに超えた力作を生み出した。



ALTのAriel先生には赴任当初からゲームなどで「生徒と仲を深める」ことを最重要視。生徒がAriel先生を好きになり、「成績のためというよりAriel先生に伝えたい」から英語を学んで使おうとする、そんな場にしたいからだ。

昨年と同じ授業を受けた生徒たちの年度末の振り返りシートを見ると、以前より「英語を好きになった」「話せるようになった」「英語学習をがんばりたいと思う」などの設問に、ほとんどの生徒が「そう思う」と回答していた。自由記述欄からは、英語はもちろん、人と関わることへの自信も芽生えたことがうかがえる(左の「生徒の声」参照)。

英語を使うのが楽しくなり、授業の振り返りを勝手に英文で書き出した生徒もいれば、校内で英語の先生を見かけると、すかさず英語で話しかけるようになった生徒もいる。その際の単語のスペルや会話の組み立てには、まだ不正確な部分もある。が、それでも間違いなく、以前より自分の思いを相手に伝えられるようになった。

工藤先生が驚いた変化もあった。校内のアンケートで家庭学習の習慣がないことを明らかにしていた生徒が、宿題を出したわけでもないのに、家でスピッチの練習をしてきたり、英語表現の課題を授業中だけで終わらせず、家で何

生徒の変容・成長

「私、やればできるんだ」と実感し、英語で人と関わるのを楽しむように

授業デザインの理念

「大切にされる人」を育てるために 英語で何ができるかを考え続けたい

時間もかけてより良くしてきたりする。ことが出てきたのだ。現2年生は、探究活動の1環で、京都旅行中に駅前・商店街・高校の3箇所から一つを選び、鉦路のPRをすることに。商店街のみ、日本語に加えて英語でもすることになったが、英語が苦手な生徒が多かったは

ずなのに、「一番人気となった。冗談ではなく、率直な物言いで「私、やればできるんだね」「自分もやればできると思った」と生徒が心情を明かしてくれていることがある。そうした生徒に「そうだよ」と返せるときが、工藤先生は一番嬉しいという。

今後目指したいことは、校内の先生たちと力を合わせて、自校の教育目標を具現化することだという。「何事も大切にし、まわりから大切にされる人を育てる」という理念を。

もっとも、普段の授業では「失敗ばかり」とも工藤先生は述懐する。生徒の成長を目にすると、「嬉しくて、欲が出て、あれもこれもと二気に求めすぎる授業設計をして、生徒を戸惑わせてしま

「最初は「大切にされるのを望むのは我侪では？」と思ったんですけどね。でも、「大切にされる人」とはどういう人かを考えたら、それは自分を大切に

「そんなときは」ごめん、私が悪かった」と断り、もう一度ゴールの設定から授業の組み立てまでを見直す。

「授業の進め方を、毎年、生徒から学んでいます。例えば私の授業では、スピッチの様子を他の生徒にスマホで動画撮影してもらい、見返すことをしている

のですが、不恰好な自分を見るのは大人でも嫌ですよね。もしすごく嫌なら、目録や声量の確認が目的なので、自分が可愛いキャラクターに加工されるアプリで撮影してもいい。こうしたことも生徒から教わりました。生徒と共に、学び続ける教員でいたいと思っています」

「最初「大切にされるのを望むのは我侪では？」と思ったんですけどね。でも、「大切にされる人」とはどういう人かを考えたら、それは自分を大切に